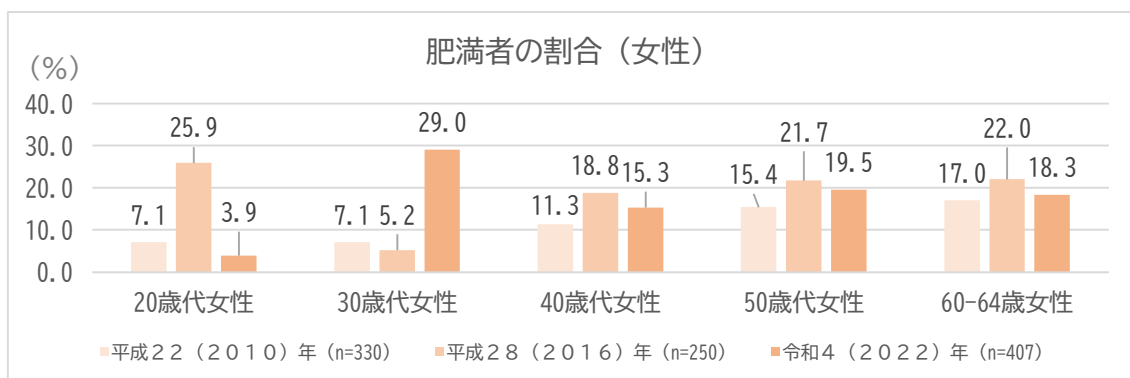
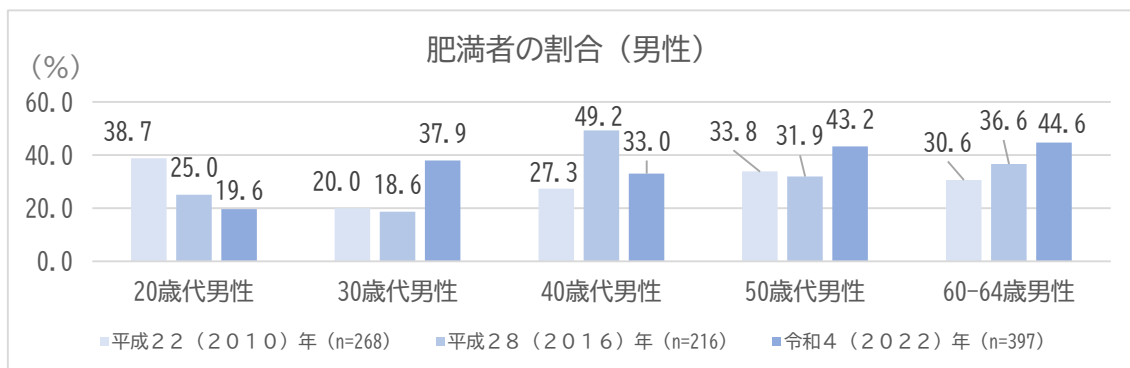


【資料編】

1 山形市の現状

(1) 成人の肥満傾向について

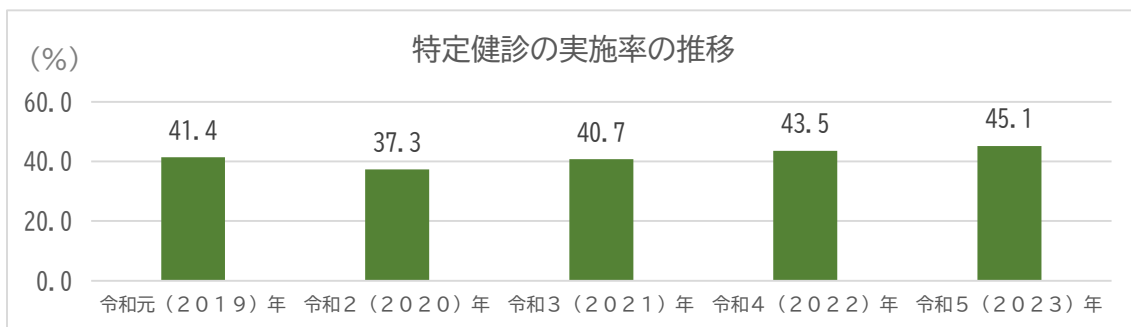
肥満傾向のある成人の市民について、多くの年代で増加しています。背景として、新型コロナウイルス感染症の流行により、外出機会が減少したことが考えられます。



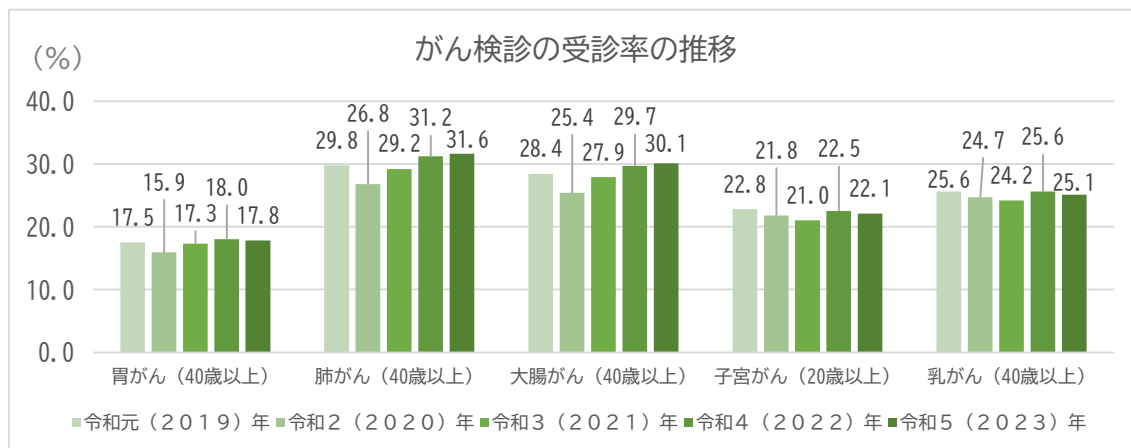
出典：平成22年、平成28年、令和4年県民健康・栄養調査

(2) 各種健診等の受診率について

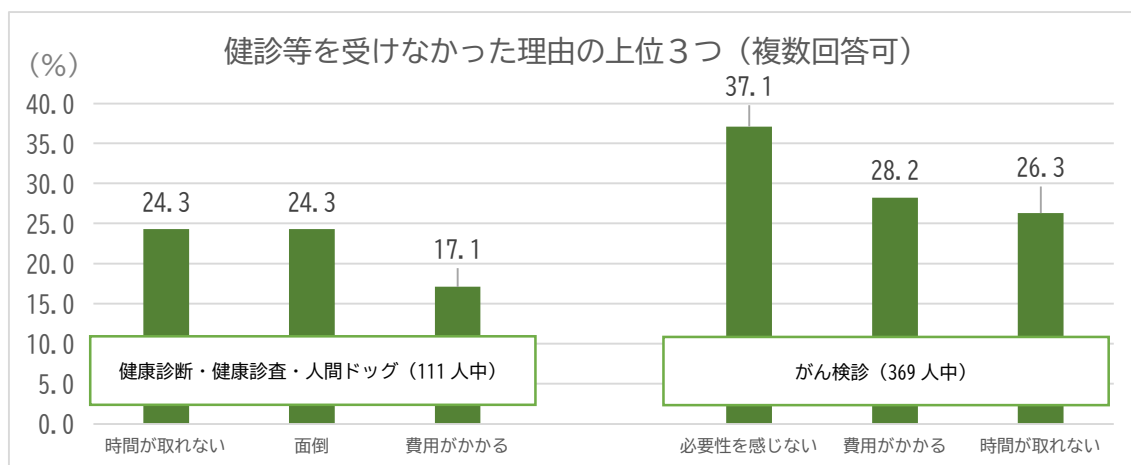
コロナ禍の影響により低下した受診率は徐々に戻りつつありますが、特定健診、各種がん検診ともに伸び悩んでいます。健康診断やがん検診を受けなかった理由としては、「時間が取れない」「必要性を感じない」「費用がかかる」が多い状況です。



出典：厚生労働省 2019年度から2022年度 特定健診・特定保健指導の実施状況（保険者別）、特定健診等データ管理システム 特定健診・特定保健指導実施結果集計表（県集計）（令和5年度）



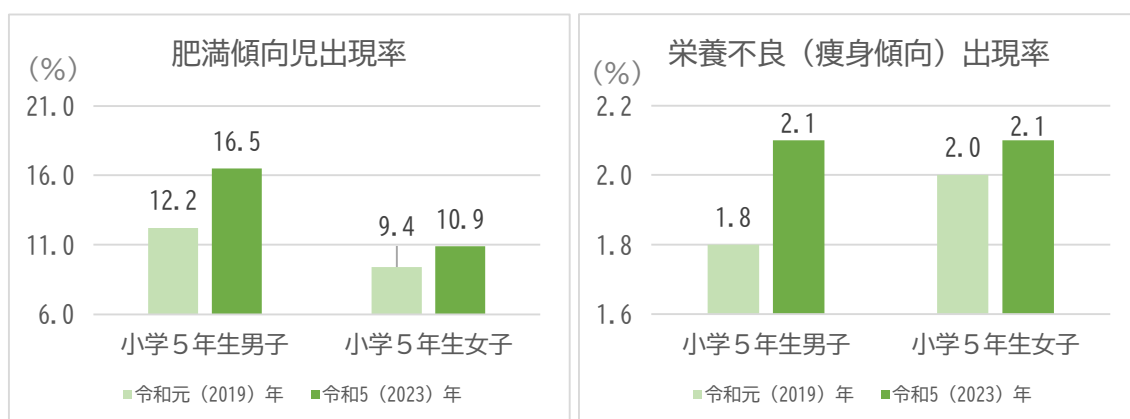
出典：令和元年～5年 県がん検診成績表 がん検診受診率の推移



出典：令和5年山形市健康と生活習慣に関するアンケート調査

(3) 児童の肥満傾向と栄養不良（痩身傾向）について

令和元（2019）年度と令和5（2023）年度を比較すると、肥満傾向及び栄養不良（痩身傾向）の児童が増加しています。肥満傾向と栄養不良（痩身傾向）の相反する傾向が揃って見られた要因としては、朝食の欠食や孤食などによる、児童・生徒の偏食等の影響の可能性が考えられます。



出典：令和元年度～5年度山形市の学校保健

(4) 不登校児童・生徒の増加について

不登校児童・生徒が増加傾向です。コロナ禍の長期化で生活環境が変化したことに加え、不登校に対する考え方の変化も影響していると考えられます。

不登校児童・生徒の割合の推移 (%)

令和元（2019）年	令和2（2020）年	令和3（2021）年	令和4（2022）年	令和5（2023）年
1.59（※1）	1.61（※1）	2.19（※1）	3.15（※1）	3.55（※1）
			3.98（※2）	5.00（※2）

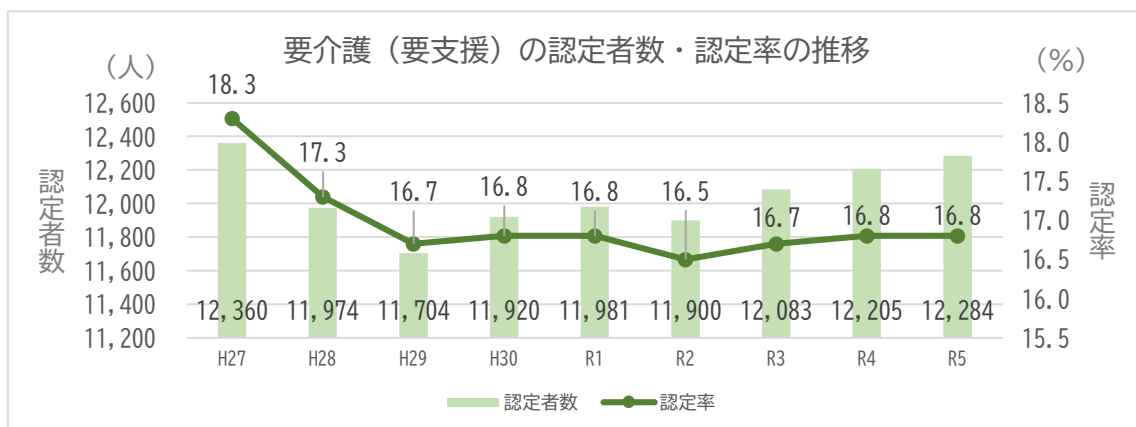
学校教育課よりデータ提供、健康増進課で作成

- ※1 【令和3年度までの不登校定義】何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあるため年間30日以上欠席したもののうち、病気や経済的な理由によるものを除いたもの。
- ※2 【令和4年度からの不登校定義】国・県の基準に合わせて、令和3年度までの定義に加えて、「病気」「経済的理由」「新型コロナウイルスの感染回避」「その他」を含めたもの。

(5) 要介護（要支援）認定者の推移について

要介護（要支援）認定者数は、平成28（2016）年3月に介護予防・日常生活支援総合事業が開始したことに伴って一時的に減少しましたが、平成30年以降は緩やかな増加傾向で推移しています。

要介護（要支援）認定率については、認定者が生じる割合が高い後期高齢者の増加に伴い年々上昇すると見込まれていましたが、現状では平成29（2017）年と同水準を維持しており、介護予防等の取組の推進により、高齢期を迎えても健康に生活している高齢者の割合が高くなっていると推察されます。

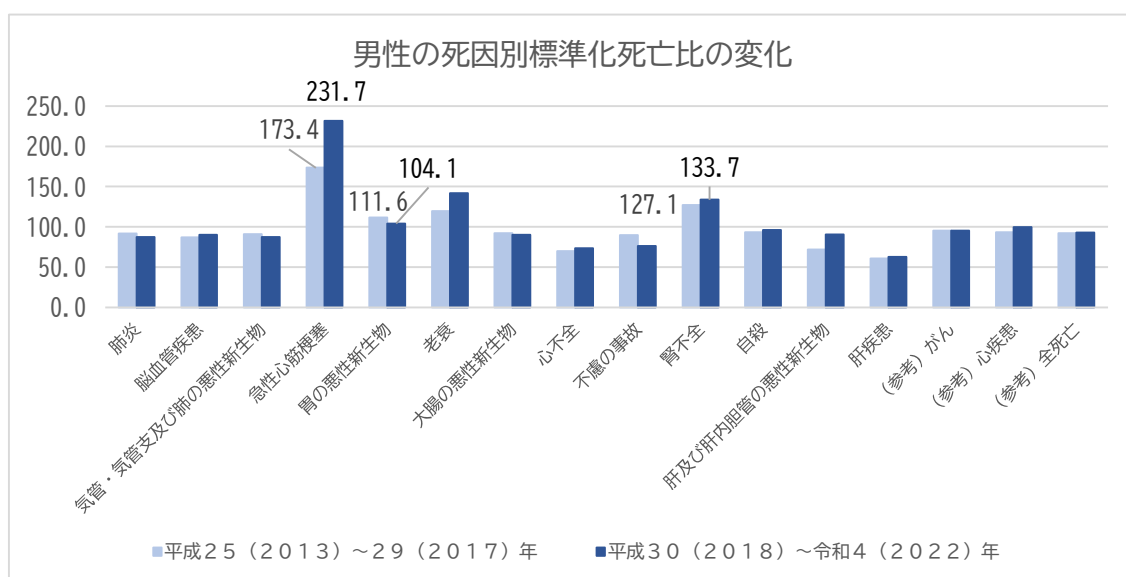


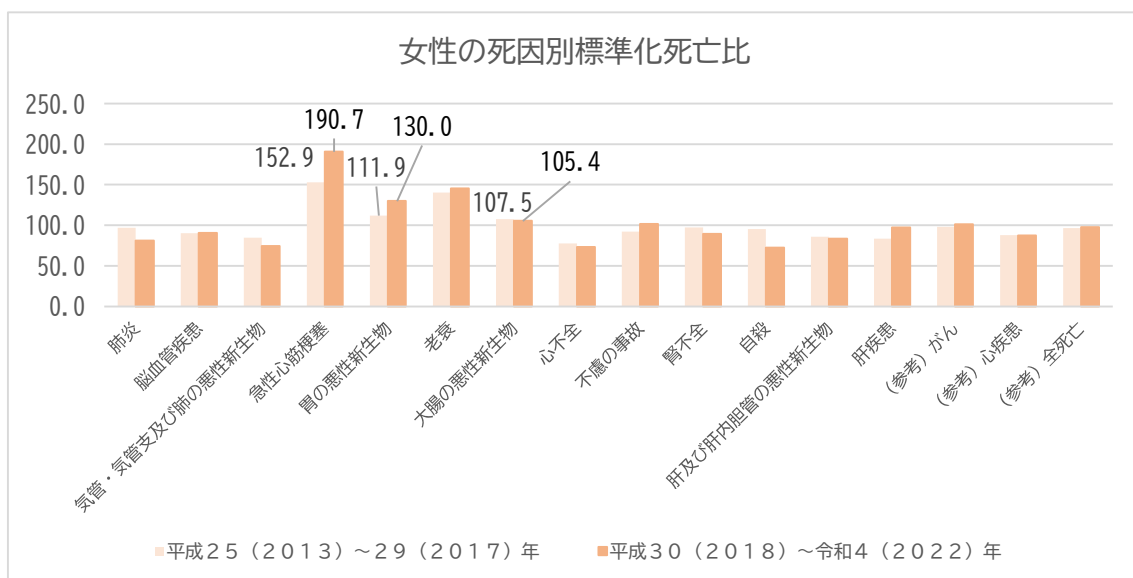
出典：第7～9期高齢者保健福祉計画

(6) 死因別標準化死亡比※について

国と比較して、男女ともに急性心筋梗塞による死亡率が非常に高い状況です。

また、男性では胃がんや腎不全、女性では胃がんや大腸がんの死亡率が高いことが分かります。

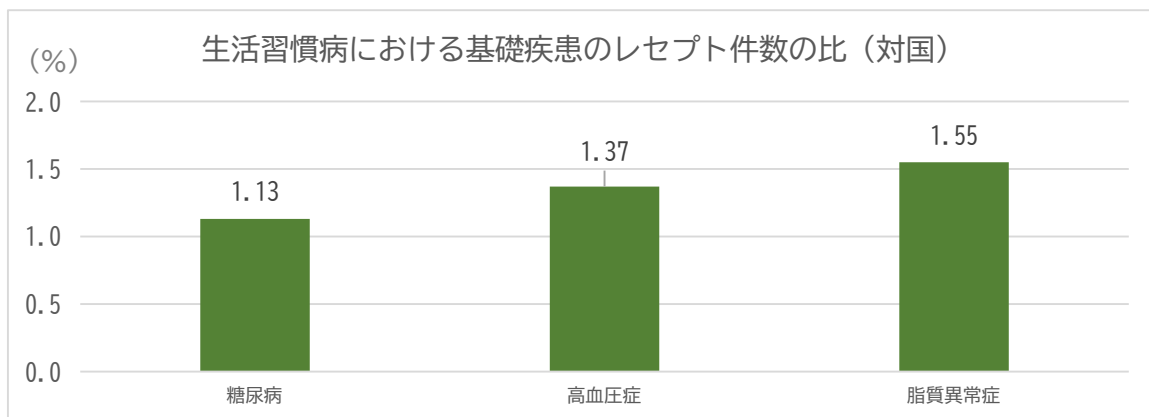




出典：厚生労働省 平成25～平成29年人口動態保健所・市区町村別統計
 厚生労働省 平成30～令和4年人口動態保健所・市区町村別統計

(7) 生活習慣病における基礎疾患のレセプト件数の比について

基礎疾患のレセプト件数については、糖尿病、高血圧症、脂質異常症いずれも国と比較して件数が多く、特に脂質異常症が多い状況です。

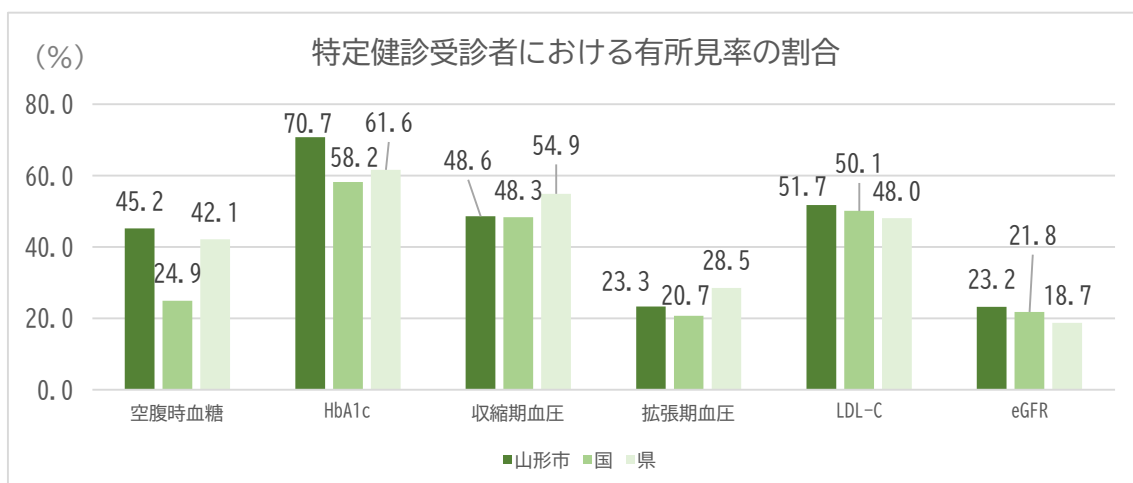


出典：KDB帳票 S23_005-疾病別医療費分析（細小（82）分類）令和4年度 累計

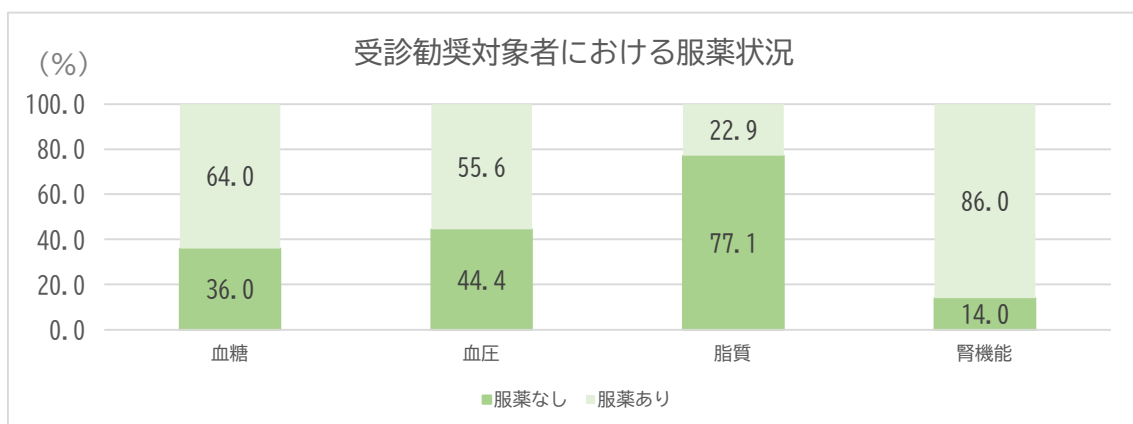
(8) 特定健診受診者における有所見者の割合及び受診勧奨者における服薬状況

国や県と比較して「空腹時血糖」「HbA1c※」（血糖）、「LDL-C」（脂質）、「eGFR」（腎機能）の有所見率が高くなっています。

受診勧奨対象者における服薬状況を見ると、血糖36.0%、血圧44.4%、脂質77.1%、腎機能14.0%が服薬をしていない状況です。



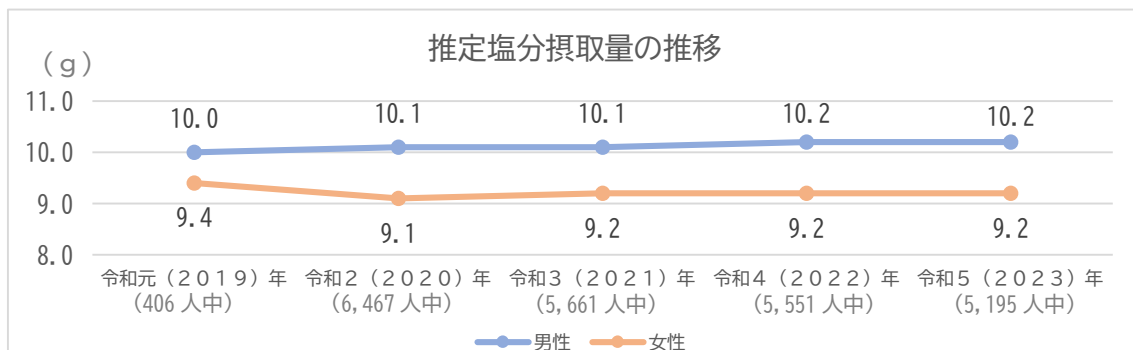
出典：KDB帳票 S 2 1 _ 0 2 4 -厚生労働省様式（様式5－2） 令和4年度 年次



出典：KDB帳票 S 2 6 _ 0 0 5 -保健指導対象者一覧（受診勧奨判定値の者） 令和4年度 累計

（９）推定食塩摂取量について

「日本人の食事摂取基準」（2025年版）における目標値（成人男性7.5g、成人女性6.5g）を大幅に上回っている状況です。女性よりも男性の摂取量が多く、経年的に横ばいで推移しています。

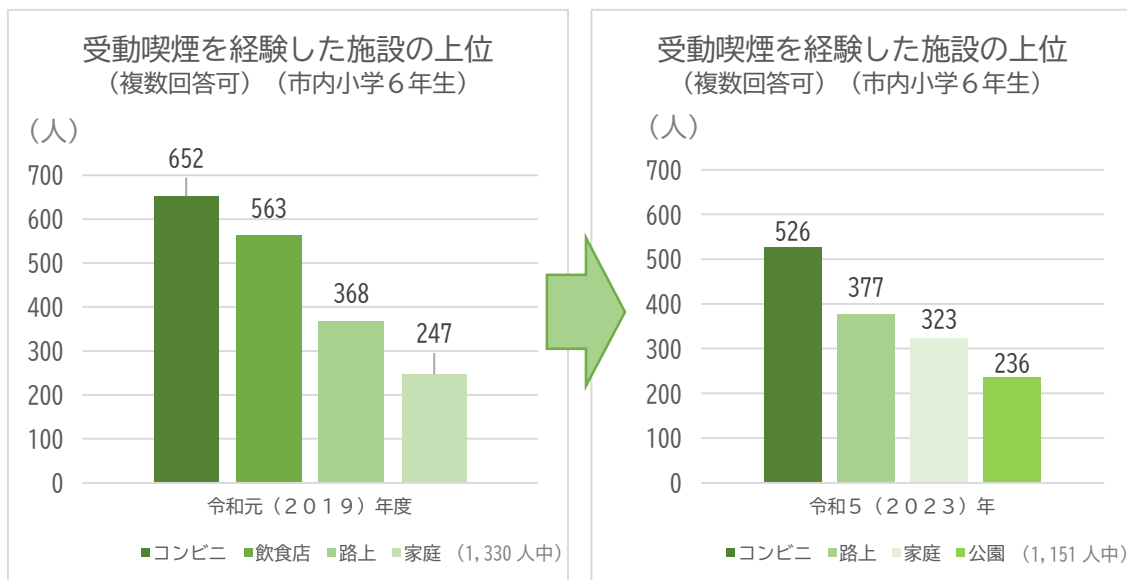
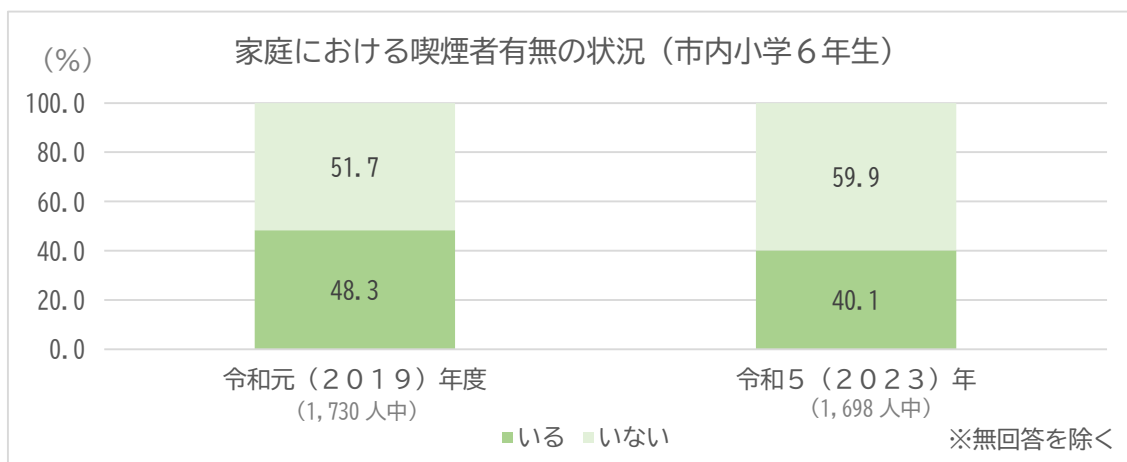


出典：令和元年～令和5年度山形市推定食塩摂取量検査結果

(10) 子どもの受動喫煙について

山形市内小学6年生の家庭における喫煙者の割合について、令和元（2019）年と比較し、令和5（2023）年には減少したものの、約4割の家庭に喫煙者がいる状況です。

また、受動喫煙を経験した施設の上位を見ると、令和2（2020）年4月に健康増進法が改正され、原則屋内禁煙となったことにより、飲食店での受動喫煙経験が大きく減少しました。しかし、コンビニや路上での受動喫煙は依然として多く、公園での受動喫煙が増加している状況です。



出典：令和元年、令和5年山形市子どもの受動喫煙防止条例に関するアンケート（山形市立小学校6年生が回答）

2 策定経過

本計画の策定経過は、以下のとおりです。

日程	内容
令和5年9月	山形市健康と生活習慣に関するアンケート調査を実施
令和6年7月18日	第1回山形市健康医療先進都市推進協議会関係課長会議 ・山形市健康プラン2035の素案（概要版）について協議
7月25日	第1回山形市健康医療先進都市推進協議会幹事会 ・山形市健康プラン2035の素案（概要版）について協議
10月8日	第1回健康づくり計画策定に係る関係課長会議 ・山形市健康プラン2035の素案（概要版）について協議
31日	第1回健康づくり計画策定に係る関係部長会議 ・山形市健康プラン2035の素案（概要版）について協議
11月26日	第2回健康づくり計画策定に係る関係部長会議（書面） ・山形市健康プラン2035の素案（概要版）について協議
12月9日	市議会厚生委員会 ・山形市健康プラン2035の素案（概要版）
令和7年1月8日	第2回健康づくり計画策定に係る関係課長会議 ・山形市健康プラン2035の素案（計画本編）
1月16日	第2回山形市健康医療先進都市推進協議会幹事会 ・山形市健康プラン2035の素案（計画本編）について協議
2月13日	山形市健康医療先進都市推進協議会 ・山形市健康プラン2035（案）について協議
2月17日	市政経営会議 ・山形市健康プラン2035（案）について協議
3月17日	市議会厚生委員会 ・山形市健康プラン2035について報告 山形市健康プラン2035策定

3 用語解説

あ行	
アピアランスケア	抗がん剤をはじめとする薬物療法の副作用(脱毛、爪、皮膚の変化)による、外見の変化などがもたらすストレスを軽減するためのケア。
イエローグリーンキャンペーン	たばこの害から健康を守る「受動喫煙防止」を意味するイエローグリーンを広めるキャンペーンのこと。
ウェアラブル端末	腕や衣服に身につけて使用するデジタル機器のこと。自身の健康データを取得し、管理できる機能を持つ端末もある。
運動器疾患	骨折、変形性膝関節症、変形性脊椎症、関節リウマチなど骨・関節の病気の総称。
EBPM	Evidence Based Policy Makingの略。政策企画において、目的を明確化したうえで合理的根拠(エビデンス)に基づくものとする。
塩分チェックシート	社会医療法人製鉄記念八幡病院(理事長 土橋卓也、管理栄養士 山崎香織)が監修したシート。合計点数により、食塩摂取状況を把握することができる。
か行	
カットオフ値	ある検査や測定結果の陽性、陰性を識別する数値のこと。病態を識別するための検査・測定に用いられ、基準範囲を基本として正常とみなす範囲を決めるとき、その範囲を区切る値のことを意味する。
QOL	Quality Of Lifeの略。生活の質のこと。精神的な健康・充実感なども含めた「その人の生活のゆたかさ」を意味する。
健康寿命	健康上の問題がなく日常生活を送れる期間のこと。
健康づくり運動普及推進協議会	健康づくりのための運動を普及する健康づくりボランティア(運動普及推進員)で組織する団体。
さ行	
死因別標準化死亡比	全国平均を100とし、山形市の死亡率が全国平均と比べてどれくらい高いかを示す指標。
COPD	Chronic Obstructive Pulmonary Diseaseの略。慢性閉塞性肺疾患のこと。以前は慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれた病気の総称で、たばこの煙などの有害物質が原因で肺が炎症を起こし、呼吸がしにくくなる病気のこと。

住民主体の通いの場	地域住民が主体となって、身近な集会所等に週1回以上集まり、介護予防の活動（いきいき百歳体操など）を行う場。
食生活改善推進協議会	健康づくりのための望ましい食生活を普及啓発するボランティア（食生活改善推進員）で組織する団体。
シンクタンク	調査研究及び課題解決策の立案を担う機能集団。 （詳細はP 13を参照）
た行	
唾液潜血検査	通常唾液に含まれることのない潜血量を調べ、歯周病のリスクを判定する。
データ連携基盤	異なる複数のシステムやサービス間で蓄積された異なる形式のデータを効率的に収集・変換・管理してやり取りを行うための基盤となる仕組みやシステムのこと。
DX	D i g i t a l T r a n s f o r m a t i o nの略。デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革するという意味。
な行	
ナトカリ比	尿中に排泄されるナトリウム(Na)とカリウム(K)の比(Na/K)。ナトカリ比と血圧が強く関連することが明らかになっており、ナトカリ比を低くすることが高血圧・循環器病予防に有効。
は行	
平均寿命	0歳における平均余命のこと。
平均余命	ある年齢の人々があと何年生きられるかいう期待値のこと。
PHR	P e r s o n a l H e a l t h R e c o r dの略。生涯にわたる個人の健康・医療に関わる情報（個人の健康や身体の情報や記録した健康・医療・介護などのデータ）のこと。
バックキャストिंग	目標とする「未来の姿」を描き、そこから「いま何をすべきなのか」を考える思考法。
ヒアリングフレイル	聴覚機能の低下によって引き起こされる身体の衰え。認知症やうつ病など、要介護状態になるリスクが高まる。
BMI	B o d y M a s s I n d e xの略。肥満や低体重(やせ)の判定に用いる数字（【体重(kg)】÷【身長(m)の2乗】で算出）。標準値は「22」とされている。標準値の「22」に近いほど、様々な病気にかかるリスクが低いといわれている。
フレイル	健康な状態と要介護の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下が見られる状態のこと。

HbA1c (ヘモグロビンエー ワンシー)	赤血球中のヘモグロビンが血中のブドウ糖と結合したもので、採血前1～2か月間の血糖値の平均的な状況を反映している。血糖値と違い、直前の食事の影響を受けない。
-----------------------------	---

山形市健康プラン2035
令和7年3月

編集・発行 山形市健康医療部健康増進課
〒990-8580 山形市城南町一丁目1番1号
電 話：023-616-7270
FAX：023-616-7276
E-mail：kenko@city.yamagata-yamagata.lg.jp